

病虫害防除技術情報第7号

平成 27 年 5 月 27 日
三重県病虫害防除所

ネギのネギハモグリバエ、ネギアザミウマの 発生が多くなっています

- 1 対象作物:ネギ
- 2 病虫害名:ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ
- 3 発生状況:やや多い
 - (1)巡回調査圃場では、4月に比べて5月の発生が増加しており、5月中旬におけるネギハモグリバエによる被害葉率 20.0%(平成 4.7%)、ネギアザミウマによる被害葉率 25.7%(平成 17.6%)と、いずれも平年に比べて多くなっています(表)。
 - (2)一般圃場での 5 月中旬の発生量は、ネギハモグリバエでは平年に比べてやや多、ネギアザミウマでは平年並の状況です。
 - (3)1 か月予報(5 月 21 日・名古屋地方気象台発表)によると、平年に比べ晴れの日が多い予想であり、ネギハモグリバエおよびネギアザミウマの発生に好適な条件になると考えられるため、注意が必要です。

表. 巡回調査圃場におけるネギハモグリバエ、ネギアザミウマによる被害葉率

	ネギハモグリバエ		ネギアザミウマ	
	4 月	5 月	4 月	5 月
本 年	0%	20.0%	0.2%	25.7%
平 年	0.1%	4.7%	6.6%	17.6%
平 年 比	平年並	多	やや少	多

- ・伊勢市内 4 圃場、各圃場 150 葉(50 株×3 葉)を調査。
- ・平年値は過去 10 年間(平成 17~26 年)の平均。

4 防除上の注意事項

- (1)ネギハモグリバエによる被害は、成虫では一列に並んだ白い点(食害痕および産卵痕)となり、幼虫では葉の内部から食害するため白く細長い線状になります。
- (2)ネギアザミウマによる被害は、成幼虫が葉の表面を食害するためカスリ状に白くなります。多発すると葉全体が白くなり、生育不良となることがあります。
- (3)圃場内や周辺の雑草は発生源となるため、除草に努めましょう。
- (4)いずれの害虫も多発すると防除が困難になるので、早期防除に努めてください。
- (5)薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。